

## 坂井市旧三国町における三国祭とまちとの関係性の把握 観光まちづくりにおける三国祭の活用に関する考察 その1

三国祭 山車番 観光まちづくり  
人口減少 高齢化 地方都市

正会員 ○越野 あすか\* 同 森下 暢彦\*  
同 砂塚 大河\* 同 中井 雄太\*  
同 矢吹 剣一\*\* 同 中島 伸\*\*\*  
同 西村 幸夫\*\*\*\*

### 1. 研究の背景と目的

福井県坂井市にある旧三国町は、九頭竜川の河口に位置する北前船の寄港地として栄えた湊町である。妻入りの建物の玄関に平入りの下屋がついている「かぐら建て」に代表される独自の建築様式を中心とした歴史的な町並みや、山と川に挟まれた自然地形など多様な魅力を有するまちであるが、郊外や都会への人口流出や高齢化に伴い、空き家・空地が増加している。

近年、人口減少・高齢化に加え在来産業の衰退が進むまちで住み続けるための手段として、「観光まちづくり」が注目を浴びている。急速に高齢化が進む三国において、「観光まちづくり」の大きな資源として三国祭が考えられる。北陸三大祭の一つである三国祭は、江戸時代中期から続く伝統的な祭で、福井県の無形民俗文化財に指定されている。4～6.5 mある武者人形を乗せた山車がまちなかを巡行する祭で、毎年5月20日に行われる。

本稿では、三国祭とまちの関係の実態・課題を把握し、観光まちづくりに活かすための視点を得ることを目的とする。

### 2. 三国祭とまちの関係

#### 2-1. 三国祭の運営

三国祭では、山車（やま）を出す単位となる町区（約30あり、以下「町内」と呼ぶ）のすべてが毎年山車を出すわけではなく、各町内が交代で6台の山車を出しており、その順番は数年ごとに回ってくるため、山車番と呼ばれている。山車番の回ってくる頻度は町内により異なり、時代とともに少しずつ変遷してきた。明治7年には、町名改正が一斉に行われ、旧三国湊の33町が16町に、旧滝谷出村

の9町が4町に合併したが、合併後の新町名を単位として山車を出す例はほとんどなかった。このように、住所表示の改正による新町名が登場した場合も、祭を担う山車番の単位としての町内が存続しており、三国祭の山車番の単位が住民にとってのまちの単位として強く認識されていることがわかる。

三国祭を運営するシステムとしては、各町内で山車番の年に向けて毎年区費を集め、積立金を準備している。山車番以外の年は、親類や知り合いなどを家に招いて宴会をして祭を楽しむのが習わしとなっている。

#### 2-2. 三国祭とまちの形成史

三国湊は、三国祭の起点である三国神社を中心として川沿いに下流方面へと市街地が広がっていき、旧丸岡藩との境まで来ると山側へと市街地が広がっていった。この頃（1865年頃）山車番を務めていた町内は、三国湊にある表町21町すべてであった。三国神社周辺に位置する町内ほど、山車番の回ってくる頻度が多かった。明治維新により旧福井藩領であった三国湊は、旧丸岡藩領の滝谷出村と合併した。港湾都市としての一体感を内外に示すため、旧滝谷出村からも山車を出すようになった。

現在の三国祭の山車のルートとまちの形成史を地図上で重ねると図1のようになり、まちの成り立ちに沿ったルートを通っていることがわかる。

#### 2-3. 観光資源としての三国祭

平成24年の三国祭の観光客数は230000人であり、坂井市の年間入込客数の約17%を占めている（福井県観光営業部観光振興課福井県観光客入込数（推計）より）。

平成25年5月20日に三国祭を訪れていた観光客にアンケートを行い、100人から回答を得た。その結果が図2で



図1 まちの形成と山車のルート

Relationship between MIKUNI Festival and Community in Mikuni :  
Examination about Application of MIKUNI Festival in Tourism Community  
Development (Part.1)

KOSHINO Asuka, MORISHITA Nobuhiko, SUNAZUKA Taiga,  
NAKAI Yuta, YABUKI Ken-ichi, NAKAJIMA Shin,  
NISHIMURA Yukio

ある。これより、日帰り客が多く、宿泊する場合も三国内ではなく福井市に泊まる人が多いことがわかる。また、交通手段としては自動車と電車が多く、駐車場の用意や駅からの誘導が重要になる。三国に訪れた回数は3回以上の人が大半で、三国で働いていたなど、三国と何らかのつながりがある人が多いようである。三国祭に来たきっかけを見てみると、「祭りが好きだから」、「時間があつたから」、「三国のまちが好きだから」の順が多いが、この上位3つの回答をした人の内三国出身は20%となっている。このような人は、元々三国へのつながりが強く、三国へのかかわりも強い人だと考えられる。また、「帰省」、「三国に住んでいる人に誘われて」、「親族に会いに」、「友人に会いに」を回答している人も一定数いる。これらの人は、基本的には自宅や知人・友人宅に宿泊する場合が多く、東京や千葉、静岡など比較的遠方に住んでいる場合が目立った。これは三国に何らかのつながりがあるものの、普段三国にはあまり関わっていない人で、都会に働きに出て行った人が多いと考えられる。

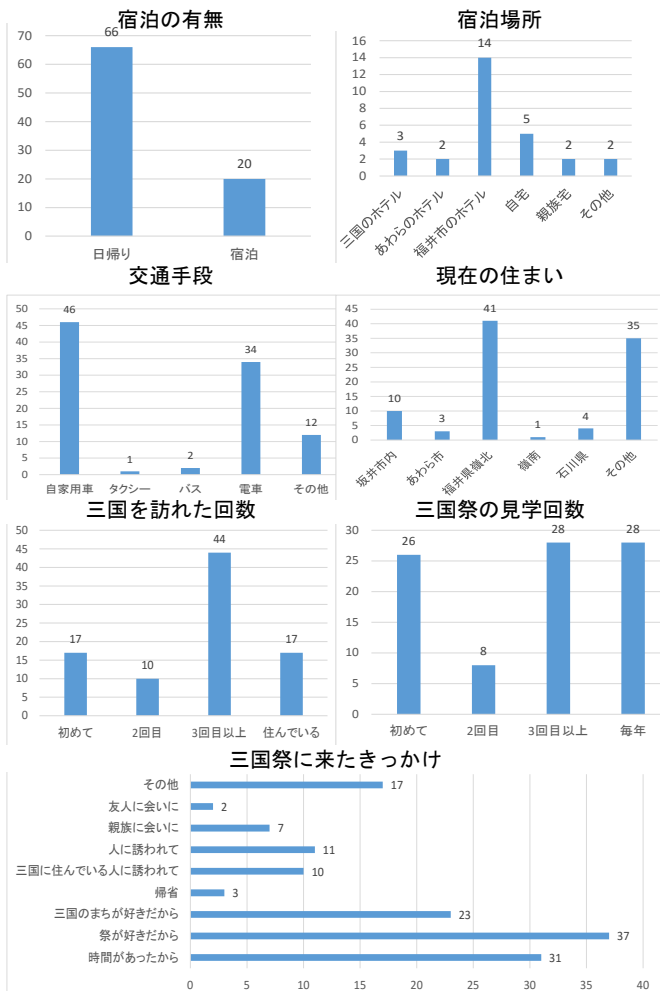


図2 三国祭でのアンケート調査の結果

### 3. 三国祭の課題

#### 3-1. 三国祭の負担

近年、かつては湊町の中心であった下町地区の中には、

空き家などが増加して現在の戸数が20軒に満たないところもあり、従来は山車番の地区だけで賅っていた曳き手や囃子方を、アルバイトやボランティアに頼らざるを得ない状況になっている。さらに、区費の負担増大が問題となり、「3年に1度」の4つの区が連名で「4年に一度」にすることを決めるなど、伝統の祭をこれまで通りのルールで継承していくことが困難になってきている。

#### 3-2. 盛り上がりの欠如

2015年8月に行った住民へのヒアリングから、かつては露店が三国神社から駅前通りまで出ていたが、現在は三国神社前から玉井あたりまでしか出ておらず、祭の賑わいが減少してしまっていることがわかった。また、非山車番の区での祭に訪れる人をもてなす慣習こそが三国祭の醍醐味であるとの声が多く聞かれたが、近年は祭に訪れる親類や知人が減ってしまったとの声も多かった。

### 4. まとめ

三国祭の山車番を務める町内ごとのコミュニティが強く、もてなしの文化が三国のまちに根付いている。このことから、三国祭がまちにとって重要な役割を担っていることがわかった。また、三国祭は観光資源として人を呼び寄せる力があり、特に三国から遠方へ出て行った人などが三国に帰ってくるきっかけにもなっている。今後の観光まちづくりを考える際、これらの人々に対する取り組みが重要になってくると考えられる。一方、現在は三国と直接的な関係がなく、決して数も多くない一般の観光客の呼び込みも同時に進めるていくことが必要である。

人口減少・高齢化によって、三国祭が住民の人的・金銭的負担にもなってきており、祭自体の盛り上がりが落ち込んできている。三国祭を保存していくため、15年ほど前から区長・三国神社・商工会・観光課などが協力して三国祭保存振興会を立ち上げ、三国祭の活性化に力を入れている。三国祭の保存・活性化とまちの保存・活性化は相互に関係しており、たとえば山車や歴史的町家を直すことのできる職人を育てる、町家の2階の座敷を観光客に貸し出すなど、祭の伝統や習慣を活かして観光まちづくりにつなげていく取り組みが必要である。更に、三国祭のときだけ使われる空き家ばかりが増え、にぎわいが三国神社の周辺のみになってゆくと、日常生活と三国祭の接点もまた薄れていく恐れがある。観光まちづくりが住み続けられるまちづくりにつながるよう、三国祭を日常にも展開していくことが求められる。

#### 【参考文献】

- 1) みくに町郷土資料館(2000)『三国の曳き山車まつり展 第16回特別展』みくに龍翔館
- 2) 三国神社(2007)『徹底ガイド 三国祭 永久保存版』継体天皇御即位1500年奉祝委員会
- 3) 三国町(1989)『三国町百年史』三国町史編纂委員会

\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程  
 \*\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 博士課程  
 \*\*\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 助教  
 \*\*\*\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授

\* Master course, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo  
 \*\* Doctor course, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo  
 \*\*\* Assistant Professor, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo  
 \*\*\*\* Professor, Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo